

## 科目「SSH研究Ⅱ」のループリック

佐賀県立致遠館高等学校理数科第2学年 ver2.0 (令和元年度)

資質・能力	3つの柱	観 点	学習到達レベル				授業や課外活動のどんな学習場面で身に付いたと思うか?(自由記述)	自己評価(S/A/B/C)	教員の評価(S/A/B/C)
			S	A	B	C			
課題解決力	知識・技能	研究のための知識	研究に必要な新しい知識を主体的に身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい知識を必要に応じて身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい知識を与えられて身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい知識を与えられて身に付けているが、課題解決に向けて活用できていない。			
		研究のための技能	研究に必要な新しい技能を主体的に身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい技能を必要に応じて身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい技能を与えられて身に付けていて、課題解決に向けて活用している。	研究に必要な新しい技能を与えられて身に付けているが、課題解決に向けて活用できていない。			
	思考表現・力判断力	批判的思考力	研究について、比較・分類・関連付け等を行い、多様な観点から妥当性を吟味でき、その思考の限界をも理解している。	研究について、比較・分類・関連付け等を行い、多様な観点から妥当性を吟味できる。	研究について、比較・分類・関連付け等を行うが、妥当性を吟味する観点が一つしかない。	研究について、比較・分類・関連付け等を行うが、妥当性を吟味できない。			
		表現力・対話力	聞き手に研究内容や結果を届けることができ、発表内容について関連する研究をしたいという動機を与えることができる。	聞き手に研究内容や結果を届けることができ、発表内容について興味関心を持たせることができる。	聞き手に研究内容や結果を届けることができるが、発表内容について興味関心を持たせることができない。	聞き手に研究内容や結果を届けられず、発表内容について興味関心を持たせることができない。			
	学び人間性か等う力	チームワーク力 〔積極性・自律性・協調性〕	意見や立場が異なる班とも連携し、課題解決に向かって研究活動を進めることができる。	班内のすべてのメンバーと目標を共有して連携し、課題解決に向かって研究活動を進めることができる。	班内の特定のメンバーと連携し、課題解決に向かって研究活動を進めることができる。	班内のメンバーと連携できず、指示されたことについて研究活動を進めることができる。			
		研究のための倫理	実験ノートの記載に再現性がある。さらに、研究発表の規定等の内容を理解しようとすることができる。	研究活動について、データ等のねつ造・改ざん・盗用をせず、実験ノートの記載に再現性がある。	研究活動について、データ等のねつ造・改ざん・盗用をしていないが、実験ノートの記載に再現性がない。	研究活動について、データ等のねつ造・改ざん・盗用等の不正行為をしている。			
		失敗から学ぶ力 *学習活動を通して失敗した経験を裏面に書いてから回答すること。 *失敗したことのみをもって成績評価を下げるこはありません。	課題研究で自分が失敗した事実をもとに原因や理由を書くことができ、再びする場合の具体策や教訓も書くことができる。	課題研究で自分が失敗した事実をもとに原因や理由を書くことができるが、再びする場合の具体策や教訓は書けない。	課題研究で自分が失敗したことを振り返るが、自分を責めるまたは他者を攻撃するように主觀的に書いてしまう。	失敗に目を向けることができず、課題研究で自分がどんな失敗をしたかを振り返って書くことができない。			

記載 年 月 日 ( )	研究分野 (1. 数学/2. 物理/3. 化学/4. 生物/5. 共創)	年 組 号	氏名
--------------	---	-------	----